

資 料

- 1 ライフステージの考え方

- 2 宇都宮市民・企業に対する各種意識調査結果

- 3 うつのみや人づくりビジョン策定懇談会資料
 - (1) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会提言抜粋
 - (2) 21世紀社会をたくましく生きる人づくり構想
 - (3) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会委員名簿
 - (4) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会の審議経過

- 4 市民意見交換会・企業意見交換会のまとめ

1 ライフステージの考え方

ライフステージとは、人間の一生を「誕生」から「死」までの過程において、特徴的な節目の変化によってとらえたいいくつかの段階を指しています。

このビジョンでは、ライフステージを青少年育成施策大綱などの国の諸計画等の区分や生涯発達論の考え方などを参考に、人が生きる上での大きな転機となるできごとを基本に、次のような5つの段階に区分しました。

【乳幼児期】概ね0歳から6歳未満

誕生から就学前の、主に保護者の温かな愛情による家庭生活や幼稚園、保育所に入園入所して、共同生活を行う時期。

【少年期】概ね6歳から15歳未満

小学校・中学校に在学している時期。

【青年期】概ね15歳から30歳未満

義務教育終了し、高等教育や就職し社会生活を営む時期。

【成人期】概ね30歳から65歳未満

家庭を形成するとともに、社会生活と家庭生活を営んでいる時期。

【高齢期】概ね65歳以上

定年退職し、第2の人生の再出発をする時期

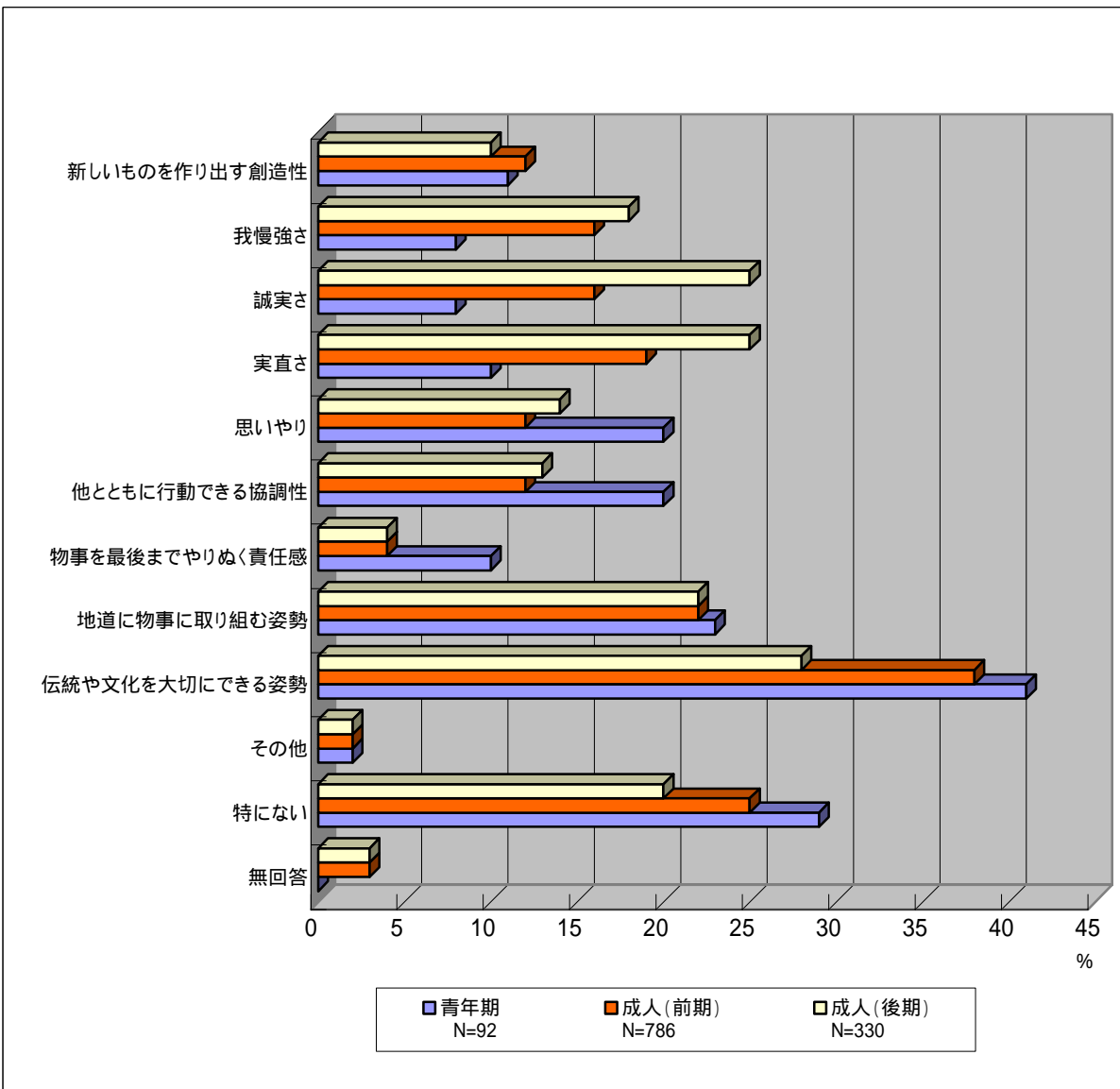
年 齢	1歳		3歳		12歳		18歳		22歳		50歳		
	6歳			15歳			30歳			65歳			
宮 っ こ 未 来 ビ ジ ョ ン	乳幼児期			少年期			青年期			成人期			高齢期
人 生 上 の 大 き な 転 機	誕 生 幼稚園保育所入園			小 中 学 校 入 学			高 校 ・ 大 学 進 学 就 労 ・ 労 働			家 庭 の 形 成			定 年 退 職
青 少 年 育 成 施 策 大 綱 (国)	乳 幼 児 期			学 童 期	思 春 期	青 年 期							
生 涯 発 達 論	乳 児 期	幼 児 期 初 期	幼 児 期 後 期	学 童 期	思 春 期	青 年 期	成 人 前 期	成 人 中 期	成 熟 期	成 人 後 期			

2 宇都宮市民・企業に対する各種意識調査結果

教育に関する市民意識調査	平成15年11月20日(木)～12月4日(木) 宇都宮市民1,833人を対象 青年期(15～19歳) 成人前期(20～49歳) 成人後期(50歳以上)
小・中学生の意識調査	市内小学6年生316名,市内中学2年生309名
人づくりに関する企業の意識調査	平成16年9月17日(金)～9月30日(木) 従業員100名以上の宇都宮市の企業63社
P4「子育ての不安や悩み」は,児童福祉課による「次世代育成支援に関するニーズ調査」 P7「高等学校の中途退学者」は,栃木県教育委員会のデータ	

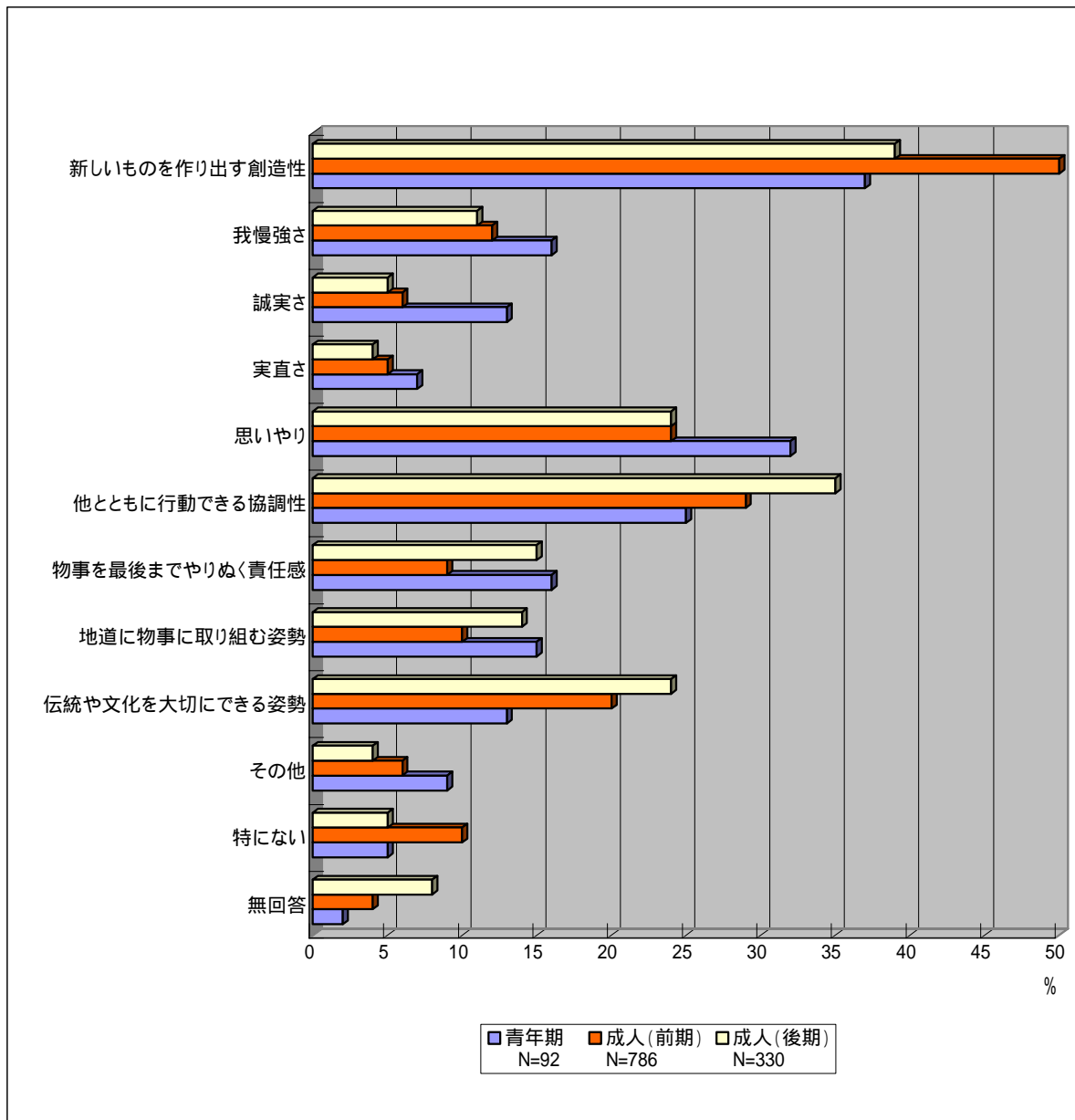
宇都宮市民について

教育に関する市民意識調査 設問2 宇都宮市民の優れているところ【複数回答】



宇都宮市民は、「伝統や文化を大切にできる姿勢」「地道に物事に取り組む姿勢」が優れているという回答が多い。
「特にない」とする意見が多いことも特徴である。

教育に関する市民意識調査 設問2 宇都宮市民の努力すべきところ【複数回答】

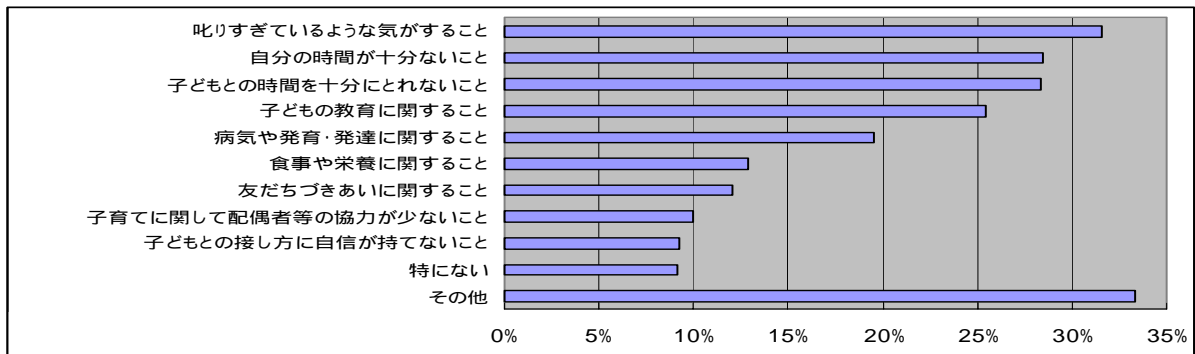


宇都宮市民は「新しいものを作り出す創造性」「他とともに行動できる協調性」「思いやり」を身につける努力が必要と考えている。

優れているところとしてあげられた「伝統や文化を大切にできる姿勢」の数値が高い。また、全体的にバラツキがあり、市民意識の差も見られる。

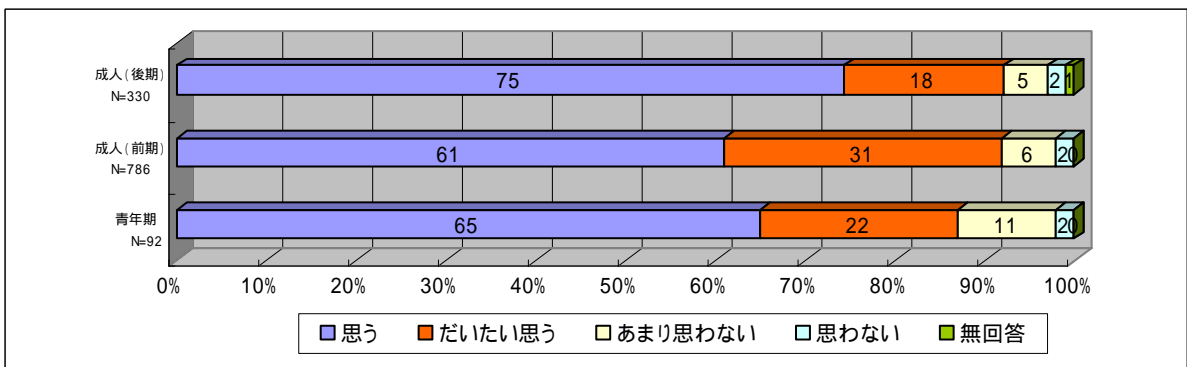
家庭教育について

次世代育成支援に関するニーズ調査 子育ての不安や悩み



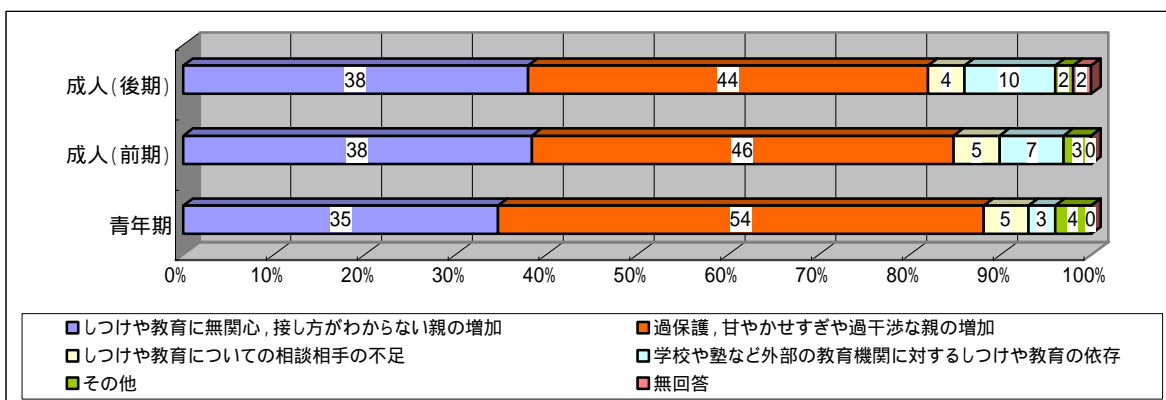
「子どもを叱りすぎているような気がする。」など、子育てに不安や悩みを抱えている保護者の割合が高い。

教育に関する市民意識調査 設問11 - (1) 家庭の教育力は低下していると思うか



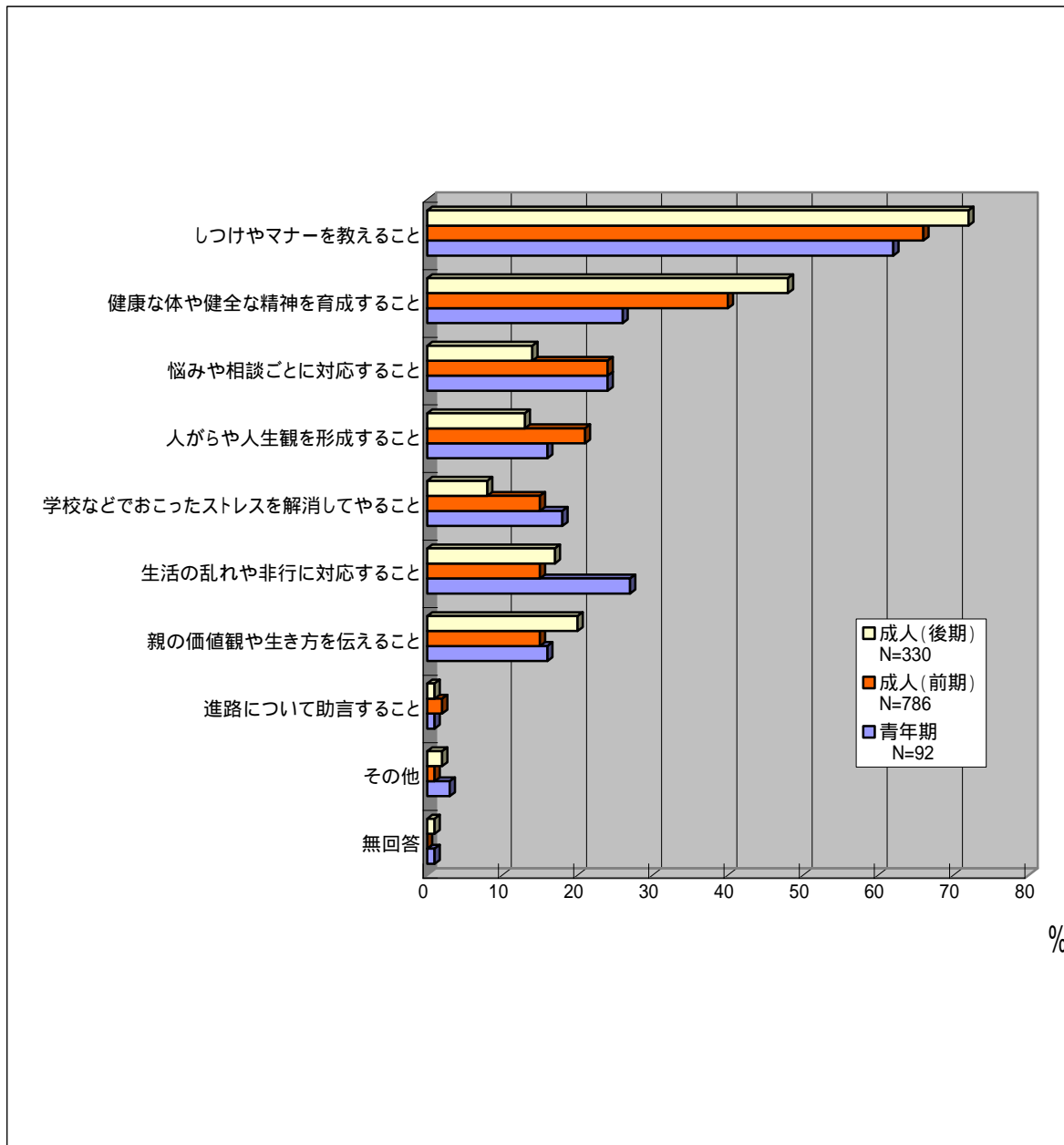
家庭の教育力が低下していると思う、「だいたい思う」と回答した人の割合は、各年齢層ともおよそ9割に達している。

教育に関する市民意識調査 設問11 - (2) 家庭の教育力の低下の原因 (設問11 - (1)で「思う」「だいたい思う」と回答した方のみ)



各年齢層とも同じような傾向を示しており、およそ半数の人が「過保護・甘やかせ過ぎや過干渉な親の増加」をあげている。次いで「しつけや教育に無関心、接し方がわからない親の増加」をあげている。一方、「しつけや教育についての相談相手の不足」や「外部の教育機関に対する依存」をあげる人は少ない。

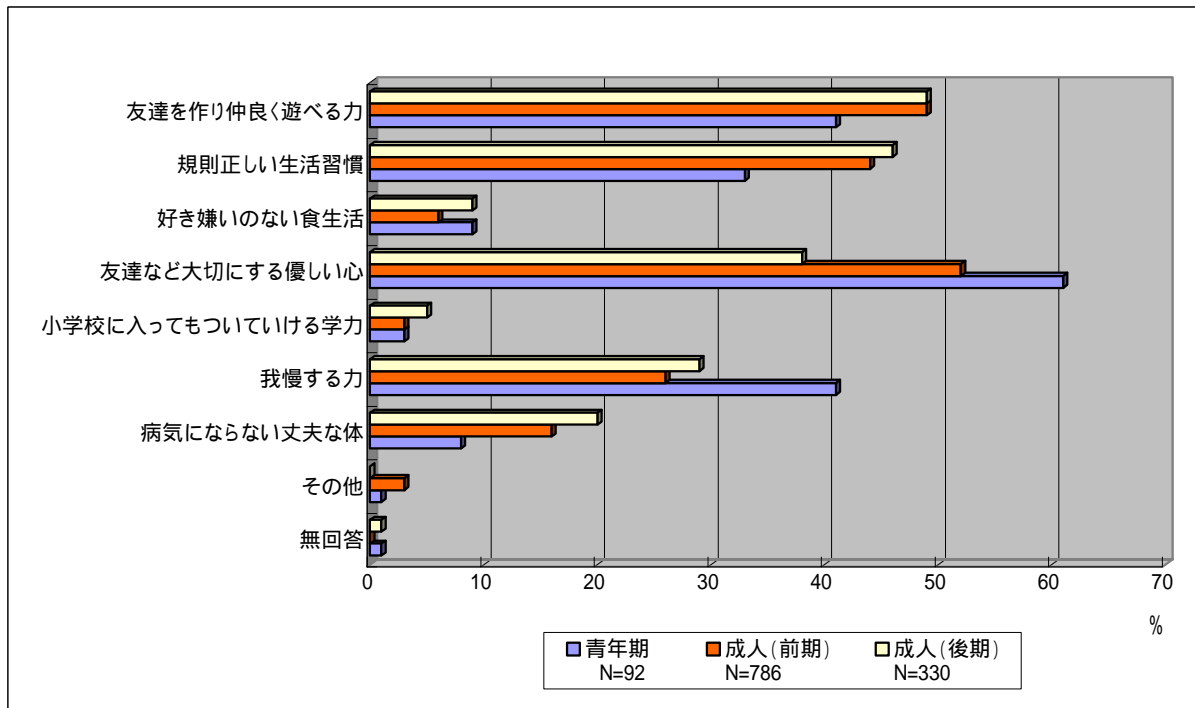
教育に関する市民意識調査 設問 11 - (3) 今後家庭で充実させるべき教育【複数回答】



「しつけやマナーを教えること」が各年齢層とも最も多く、次いで成人では「健康な体や健全な精神を育成すること」、青年期では「生活の乱れや非行に対応すること」となっている。

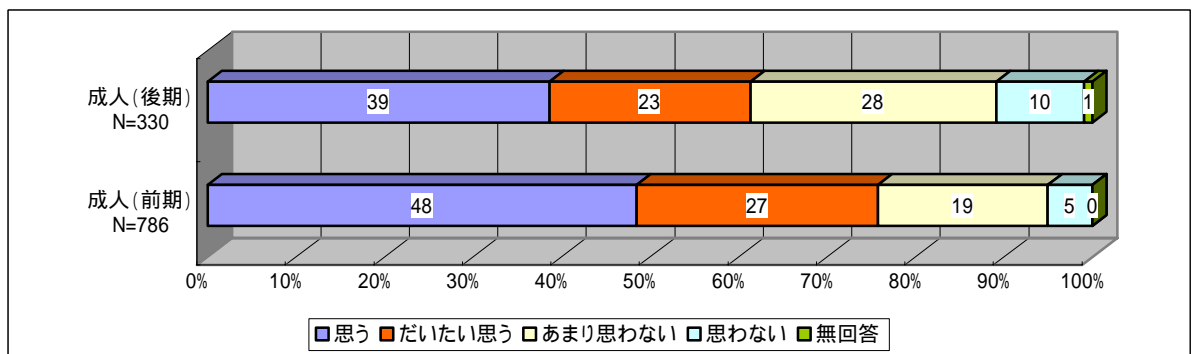
幼稚園・保育園について

教育に関する市民意識調査 設問6 - (1) 幼児教育で身につけさせたい力【複数回答】



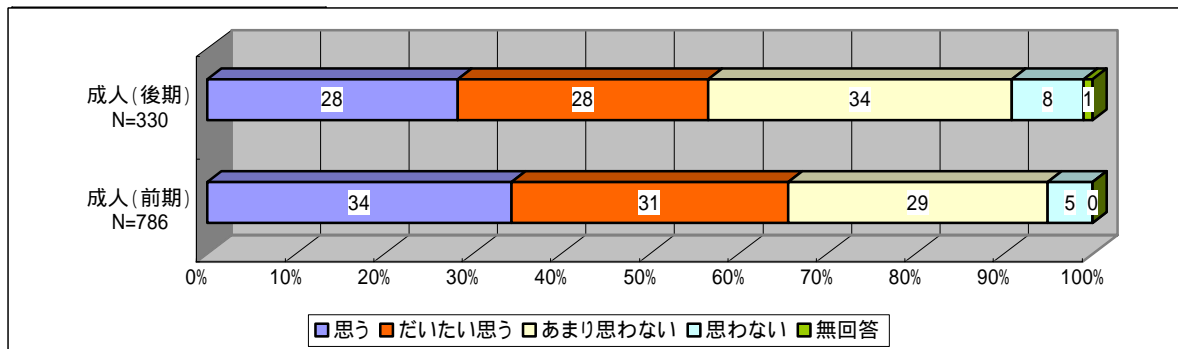
各年齢層も、幼児期には「友達などを大切にする優しい心」「友達を作り仲良く遊べる力」「規則正しい生活習慣」を身に付けるべきと考えている。
「好き嫌いのない食生活」などは、低い数値にとどまっている。

教育に関する市民意識調査 設問6 - (3)ア 幼稚園で子どもを長時間預かる制度が必要か



成人前後期とも、幼稚園で「子どもを長時間預かる制度」が必要であると考えている。
特に、子育ての最中である成人前期では、7割を超える市民が制度の必要性を認めている。

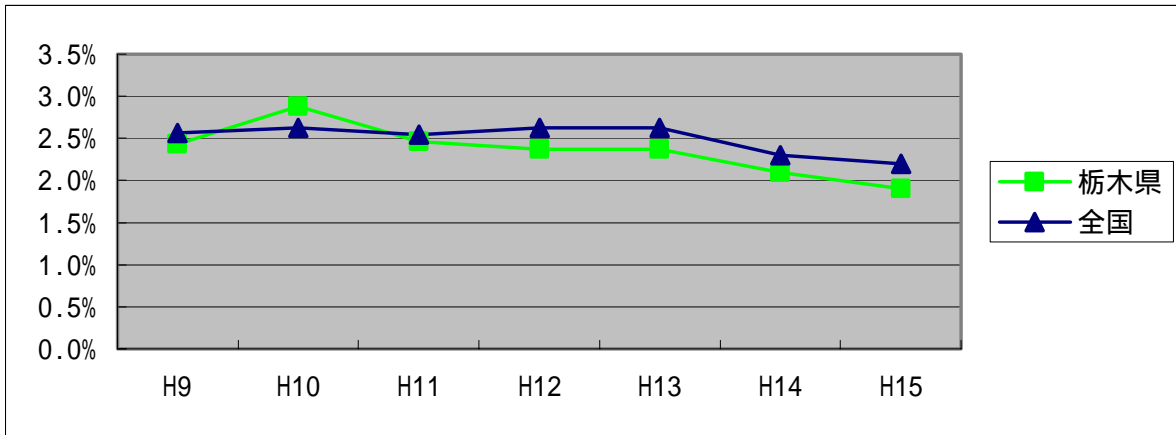
教育に関する市民意識調査 設問6 - (3)イ 保育所で教育機能の充実が必要か



成人前後期とも、約6割が、教育機能の充実が必要であると考えている。
 全体的な傾向は意見が分かれるところであるが、「思う」と「思わない」を比較すると、充実を求める声が多い。

高等学校について

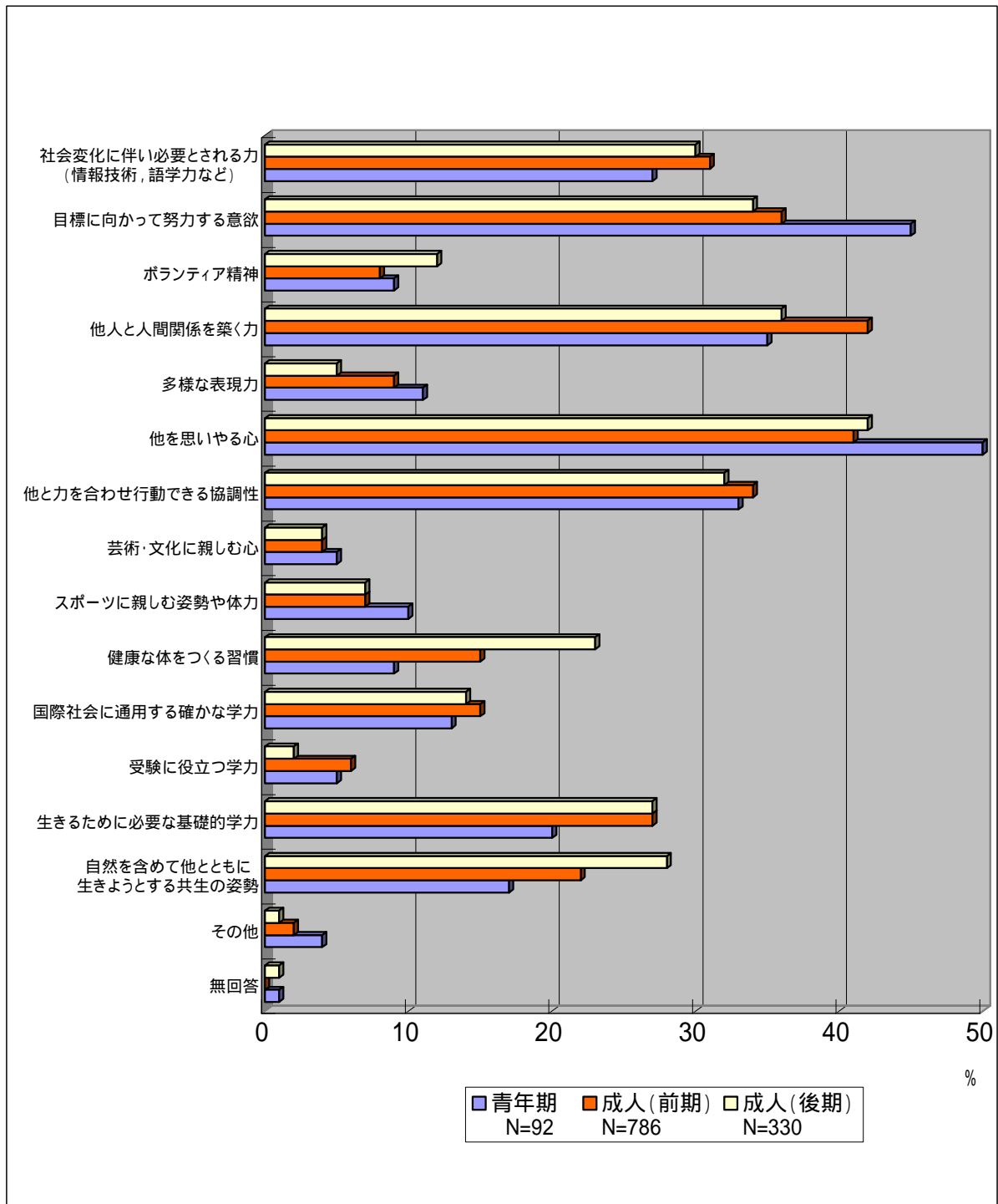
高等学校の中途退学者【栃木県教育委員会調べ】



高等学校を途中で退学する生徒は、減少傾向にはあるものの、中途退学者は全体の約2パーセントいる。

小中学校について

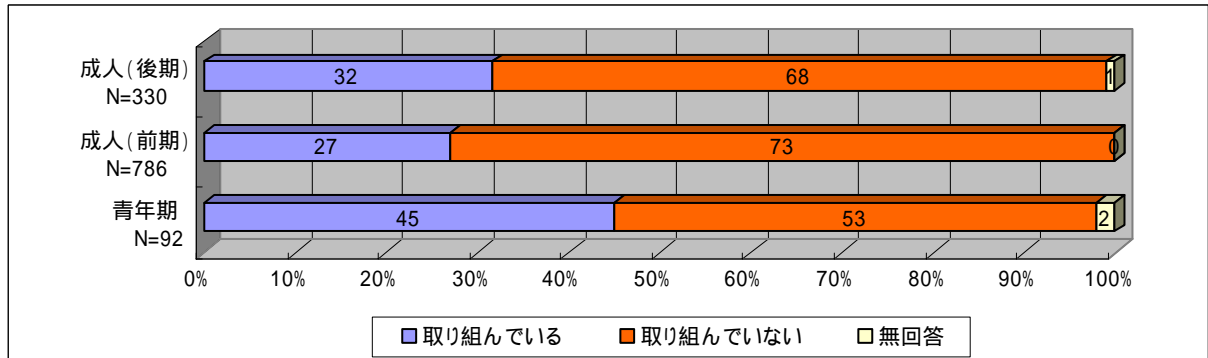
教育に関する市民意識調査 設問7 - (1) 小・中学校教育で育てたい力【複数回答】



「他を思いやる心」や「他人と人間関係を築く力」を育てることが必要であるとの回答が多い。
 「他と力を合わせ行動できる協調性」「目標に向かって努力する意欲」「社会変化に伴い必要とされる力」「生きるために必要な基礎的学力」を育てることを必要とする回答が多く、「受験に役立つ学力」や「芸術・文化に親しむ心」「スポーツに親しむ姿勢や体力」の育成を必要とする回答は少なかった。

生涯学習について

教育に関する市民意識調査 設問 8 - (1) 現在の生涯学習への取組状況

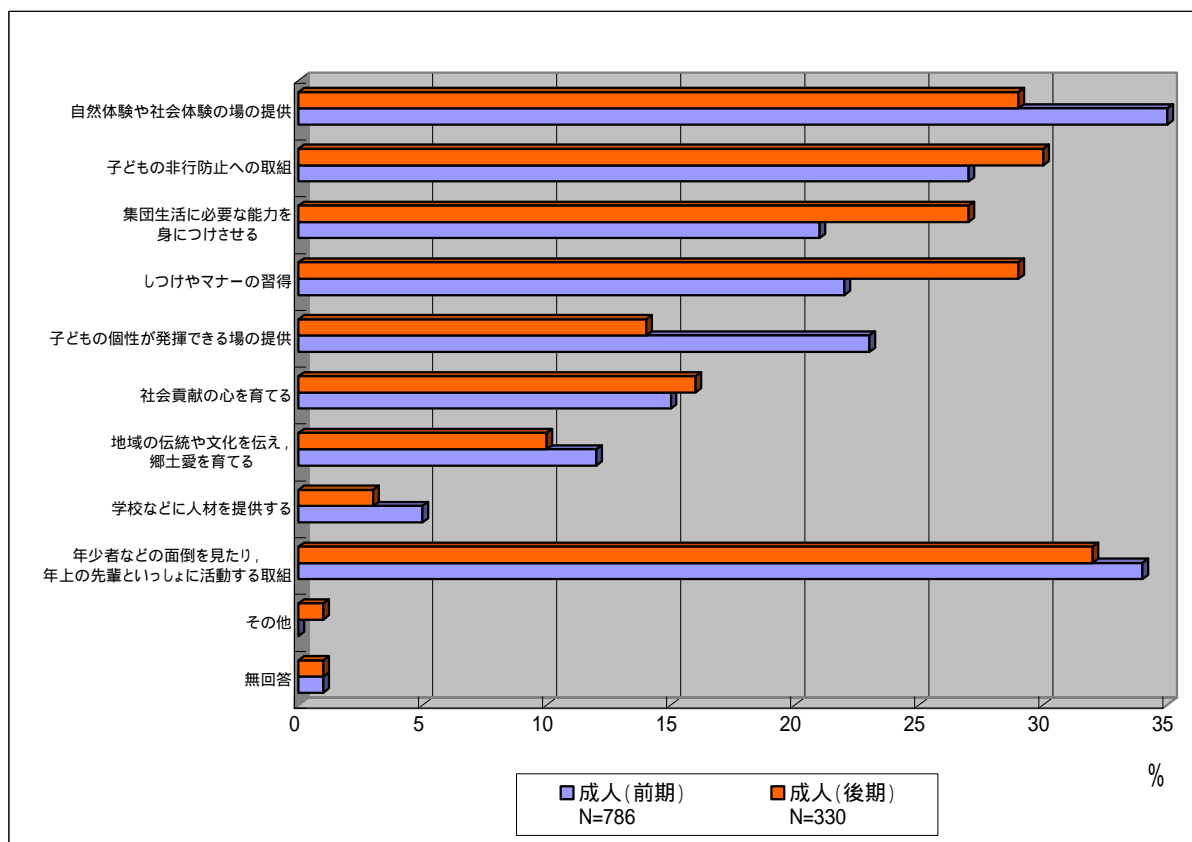


学習活動を学術・教養・趣味のサークル活動や講座の受講など、主に団体での活動に限定して聞いたところ、学習している人の割合は、青年期では4割を超え、成人後期で3割強、成人前期で3割弱の順となった。

地域について

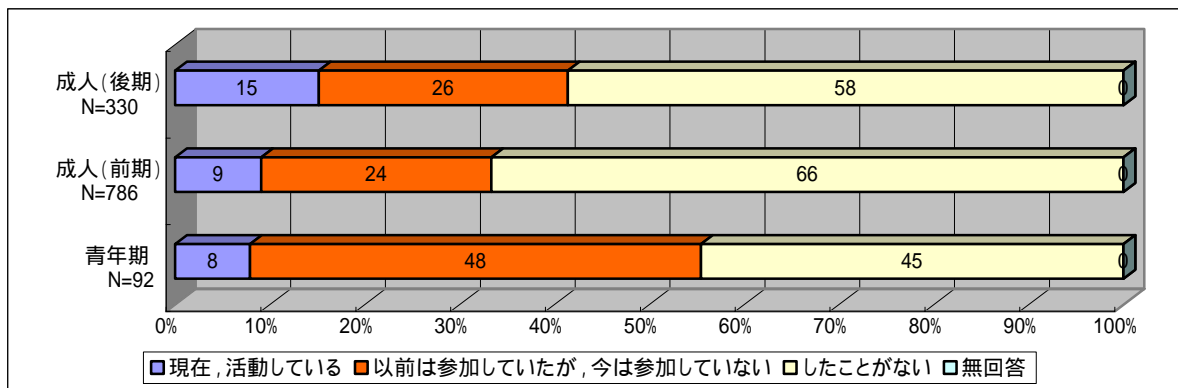
教育に関する市民意識調査

設問 1 2 - (5) 子どもの健全育成に向け、地域に期待する役割【複数回答】



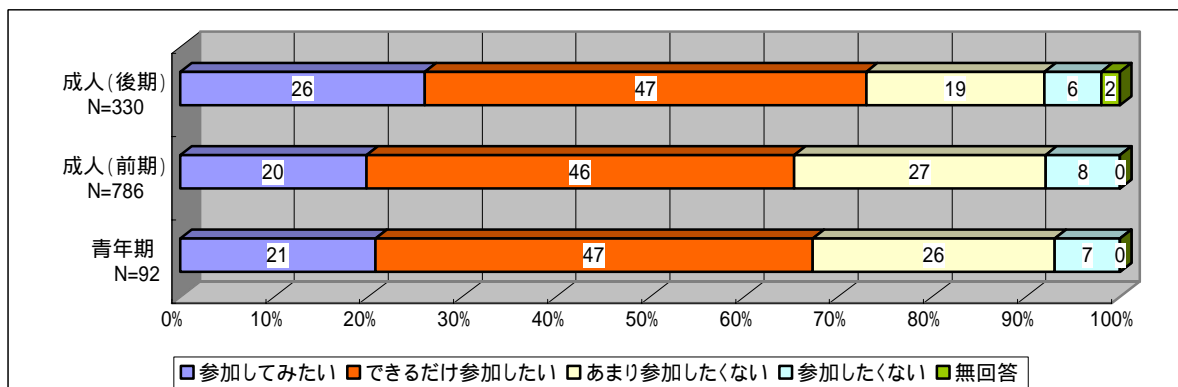
地域に求める活動は、「自然体験や社会体験の場の提供」「年少者などの面倒を見たり年上の先輩と一緒に活動する取組」「子どもの非行防止への取組」とする回答が多い。全体的にバラツキがみられ、市民ニーズの多様化がうかがえる。

教育に関する市民意識調査 設問12 - (7) ボランティア活動の経験



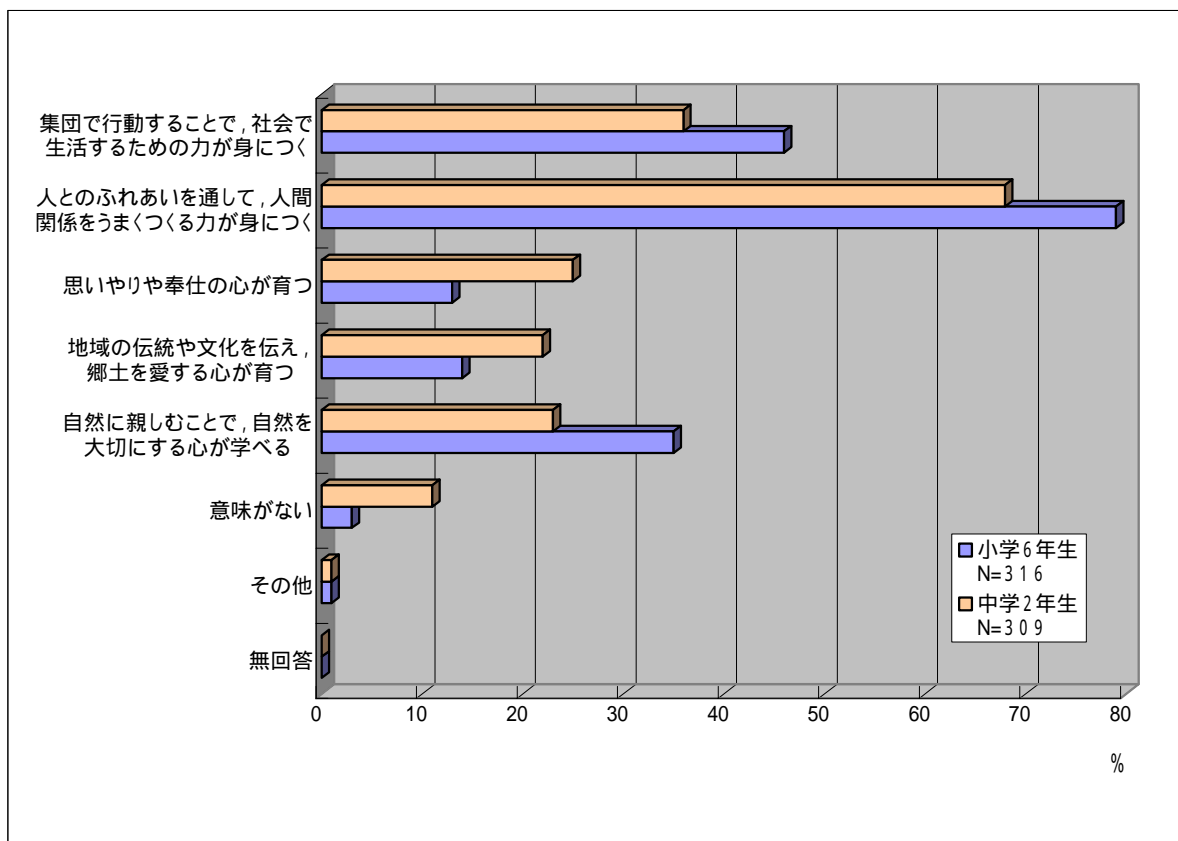
ボランティア活動は、成人前後期で約3～4割、青年期では5割以上が経験している。

教育に関する市民意識調査 設問12 - (8) ボランティア活動に参加したいか



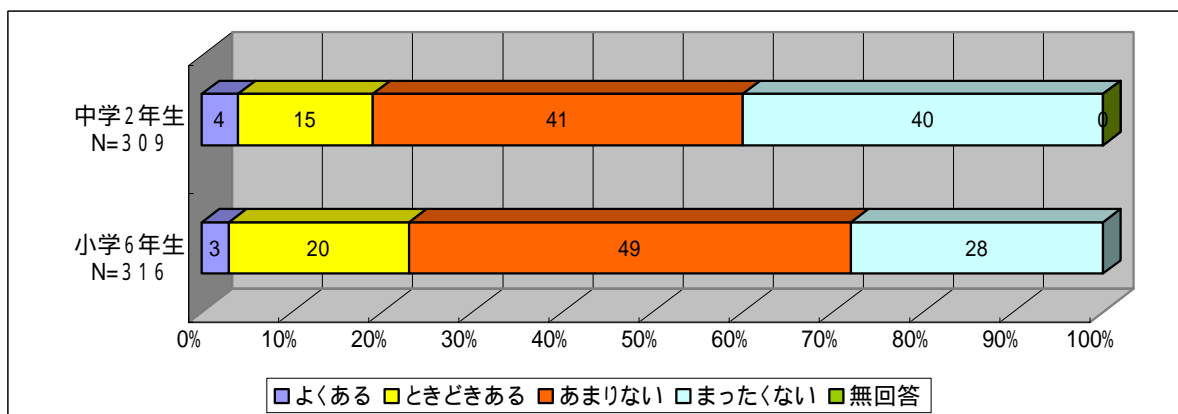
各年齢層とも約7割がボランティア活動への参加意識をもっている。
 「参加してみたい」と「参加したくない」を比較すると、「参加してみたい」が著しく多い。

小・中学生の意識調査結果 設問3 - (6) 地域活動の意義【複数回答】



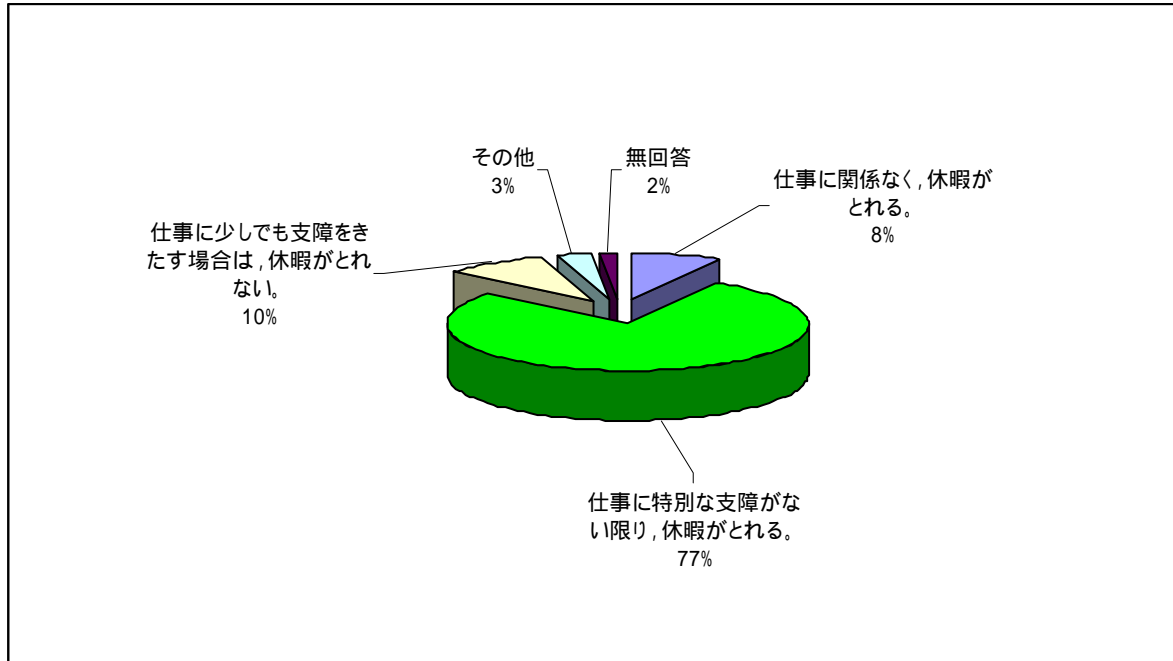
地域活動の意義は、社会性を身につけるためだと考えている小中学生が多い。小中学生ともに「人間関係をつくる力が身につく」が最も多く、次いで、「社会で生活するための力が身につく」となっている。

小・中学生の意識調査結果 設問3 - (7) 近所の大人に注意された経験



「近所の大人に注意されない」との回答が、約8割である。小中学生とも約8割が近所の大人に注意されることは「あまりない」「まったくない」と回答している。

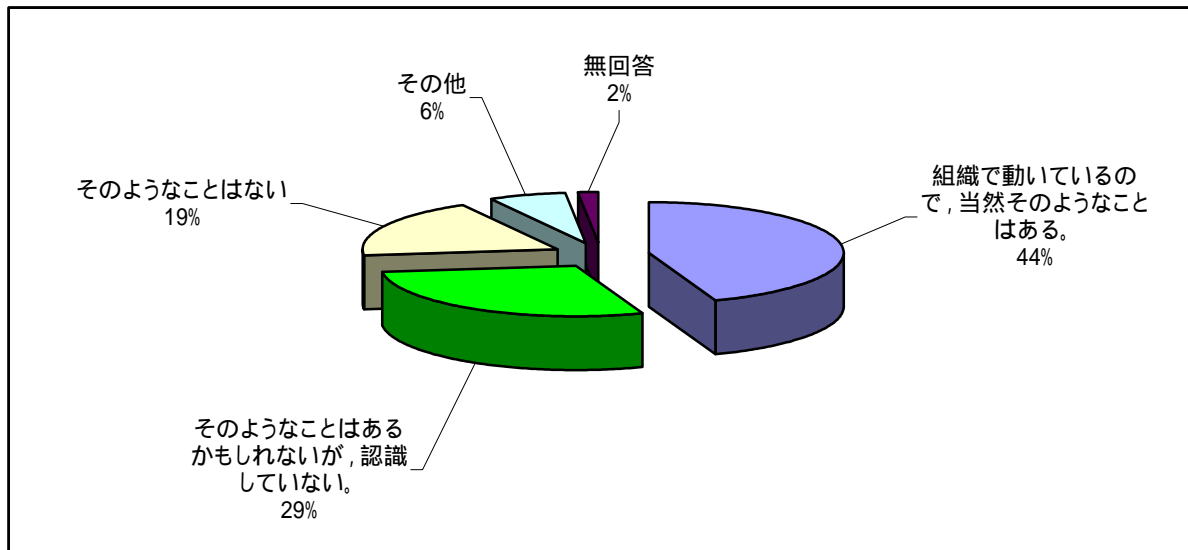
人づくりに関する企業の意識調査 設問 10 従業員の休暇承認



休暇は「仕事に特別な支障がない限り、休暇がとれる」という企業が77%、「仕事に少しでも支障をきたす場合は休暇が取れない」という企業が10%存在する。

人づくりに関する企業の意識調査

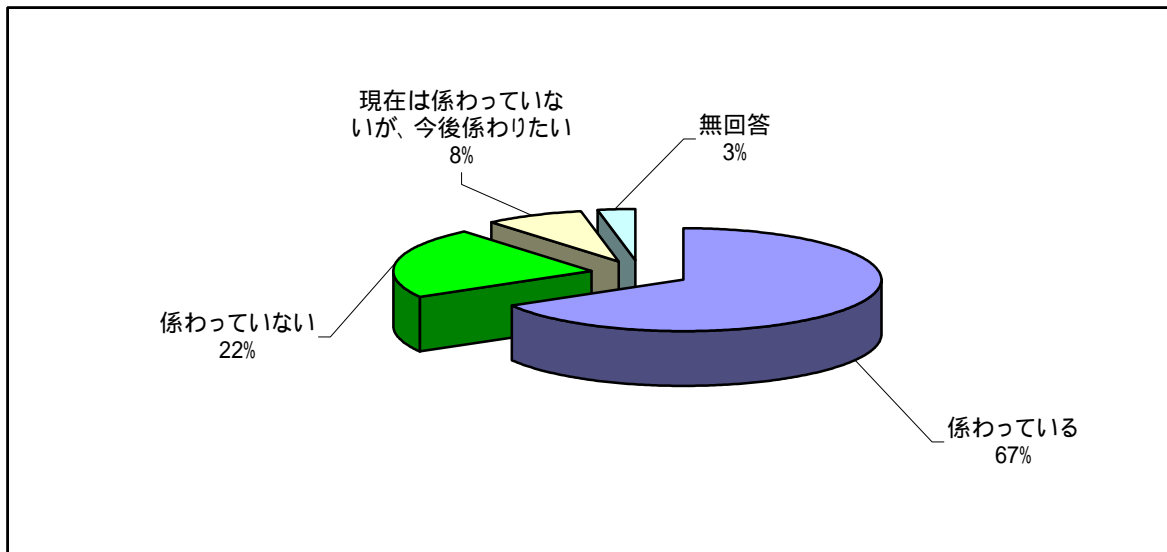
設問 11 企業内の人間関係から休暇を取りにくいことはあるか。



休暇制度は整備されているが、職場の人間関係から休暇がとりにくいという現状については、「組織で働いているので、当然そのようなことはある」と回答した企業が44%、「そのようなことはあるかもしれないが、認識していない」と回答した企業が29%であった。

人づくりに関する企業の意識調査

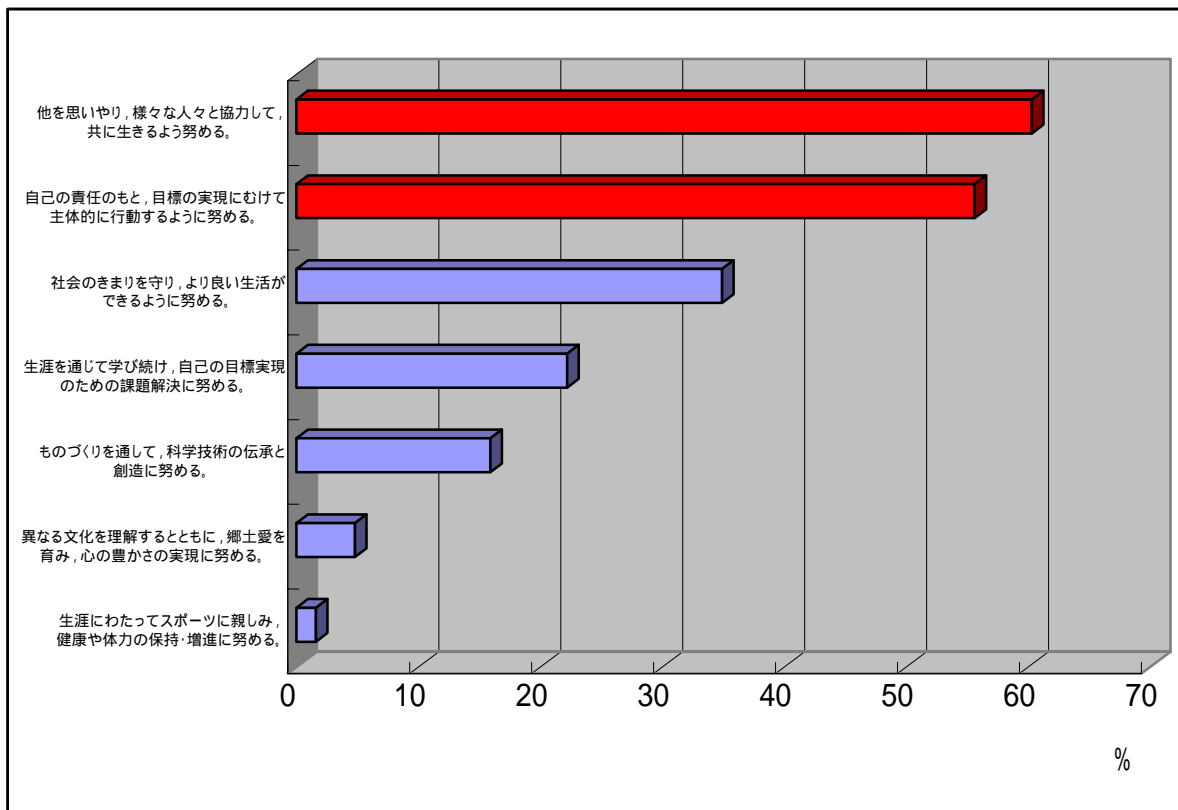
設問 12 あなたの企業は、地域活動や学校教育に何らかの支援・協力をしているか。



現在、地域活動や学校教育への支援・協力している企業は、67%である。また、今後かわりたいと考えている企業は8%ある。

人づくりに関する企業の意識調査

設問 16 うつのみや人づくりビジョンで重視すべき課題



うつのみや人づくりビジョンで重視すべき内容は、「他を思いやり、様々な人々と協力して、共に生きるよう努める。」「自己の責任のもと、目標の実現に向けて主体的に行動するように努める」が多い。

3 うつのみや人づくりビジョン策定懇談会資料

(1) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会提言抜粋

2 1 世紀社会をたくましく生き抜くために ——各ライフステージへのメッセージと25の提言——

人づくりの基盤としての「対話」の重要性

21世紀に予想される社会変化への対応や人づくりにおける様々な問題の解決を短期間に行う方策を見出すことは、極めて困難である。しかしながら、それぞれの対応や解決の方策の中には、自分以外の他者とかがかわる「対話」という共通のキーワードがある。

「対話」は、「人」と「人」、「自然」、「動植物」をつなぐ重要なかかわりであり、このことにより、相手をかけがえのない存在として認め、尊重しようとする心の豊かさをはぐくむことができる。また、今後避けることができない様々な問題、例えば、高齢化への対応についても、世代間の交流によりその糸口もつかめるであろうし、行き過ぎた個人主義も市民相互が十分な話し合いがなされれば緩和することが期待できる。さらに、不登校などの問題は、この対話能力そのものが持てれば、解決に向けて大きな一歩を踏み出すことになる。

本市では、この様々な「対話」を宇都宮における人づくりの基盤とすることが重要である。

各ライフステージへのメッセージと人づくりのための5つの提言

宇都宮市民一人一人が、自然や様々な人々などとの「対話」を通して、夢や希望を持ち続け、21世紀を心豊かでたくましく生きることができるよう願い、各ライフステージの皆さんとそれを支援する家庭や地域、幼稚園、学校、企業に対し、特に心がけていただきたい5つのメッセージと提言などをまとめた。

乳幼児期（心と体の根っこをはぐくむ）

【乳幼児期の皆さんへの5つのメッセージ】

- 1 よく笑い，よく泣き，十分に感情を発散できるようになるう。
- 2 「人」や「モノ」に積極的にかかわり，いろいろな「ためし」を試みよう。
- 3 「起床」「食事」「睡眠」など基本的な生活習慣を身に付け，体を使って元気に遊ぼう。
- 4 遊びの中で，友達と触れ合い，けんかをしたり仲直りをしたりしながら，友達関係を築こう。
- 5 自然の厳しさとすばらしさ，生き物の生死に触れ，感動や命の大切さを感じよう。

【乳幼児期における人づくりの5つの提言】

- 1 保護者は，子どもが困ったときに，「きっと助けてくれる」という安心感をもてる関係を築き，子どもが伸び伸びと自己発揮できるようにしよう。
- 2 保育所や幼稚園は，基本的な生活習慣が身に付くように取り組むとともに，保護者などからの相談や地域の活動のサポートをしよう。
- 3 地域は，子どもたちが一緒に遊んだり活動したりする場を積極的に作り，他者とぶつかることを通して，思いやりや人間関係の基礎となる力をはぐくもう。
- 4 地域は，子どもたちが自然や動植物との触れ合いを通して，感動や命を大切する心を育てよう。
- 5 社会は，子どもたちの善い行いを誉め，やってはならないことは理解させよう。

少年期（自信をはぐくむ）

【少年期の皆さんへの5つのメッセージ】

- 1 様々な課題に挑戦し，自分の特徴や可能性を確かめよう。
- 2 自分の考えをよく話し，相手の意見との違いに気づき，互いにより良い解決方法を発見しよう。
- 3 動植物や乳幼児，高齢者との触れ合いなどを通して，命に限りがあることを自覚し，自己のより良い生き方を考えよう。
- 4 自然や地域の人々と触れ合いながら，自然の偉大さ，人の温かさを知り，思いやりや集団の一員としての自覚と責任を持とう。
- 5 学校の社会体験活動や親の働く姿などにより，「自分は，こうなりたい」という夢を膨らませるとともに，働く意義についても考えよう。

【少年期における人づくりの5つの提言】

- 1 保護者は，子どもの様々な集団活動を促し，仲間とのかかわり方などへの適切なアドバイスをしたり，相談に乗ったりしよう。
- 2 学校は，確かな学力の習得を重視するとともに，他者を思いやる豊かな人間性やスポーツ・食を通じた健康体力の維持増進する力を身に付けさせよう。
- 3 学校や地域は，子どもたちが，集団活動の中で，「自分にも良い，他者にも良い」解決方法を見出せるように支援し，判断力や自律心を育てよう。
- 4 地域は，計画・実行・評価を子ども自らに行わせ，激励や賞賛を行うことにより，問題解決能力や自主性が育つように指導しよう。
- 5 企業は，子どもの豊かな心や職業観，勤労観を身に付けさせるため，積極的に学校教育の社会参加体験などに協力しよう。

青年期（社会の中で自分らしさをはぐくむ）

【青年期の皆さんへの5つのメッセージ】

- 1 「長いものには巻かれろ」的な発想をやめて、自分の考えは勇気をもって表現しよう。
- 2 将来のイメージを設定し、「仕事をする」と「生きること」を対比させながら、実現に向けた課題を見つけ出し、解決に向けて創造的に取り組もう。
- 3 国を超えた人々との交流などにより、日本のすばらしさや今後のあるべき姿を認識するとともに、「異なること」を受容し、共に生きようとする姿勢を身に付けよう。
- 4 地域の「ニューリーダー」として、年下の子どもたちを対象とした活動などを企画立案し、責任をもって実践しよう。
- 5 地域よりさらに大きな「社会」を考え、身近な「モラル」から実践しよう。

【青年期における人づくりの5つの提言】

- 1 保護者は、子どもの将来の生き方について共に考え、先輩社会人として、的確なアドバイスをするように努めよう。
- 2 学校は、再就職や進路変更などにも柔軟に対応できる高等教育の仕組みを通して、自己実現に向けた様々な知識や技能を提供しよう。
- 3 地域は、奉仕活動や地域行事に企画段階から積極的にかかわらせ、世代を超えた交流を通して、責任感や社会的に認められる自分らしさが獲得できるよう支援しよう。
- 4 地域は、世代を超えたスポーツ活動や異文化交流活動等を通して、青年の健康や心の豊かさが育つよう支援しよう。
- 5 企業は、青年の望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるため、積極的に学校教育等の社会参加体験やインターンシップ制度などに協力しよう。

成人期（次世代をはぐくむ）

【成人期の皆さんへの5つのメッセージ】

- 1 夢を追いながら、積極的に自己実現に取り組み、その姿を子どもに「そのまま」見せ、「夢を持つことの大切さ」を伝えよう。
- 2 家族一人一人が持つ「らしさ」を尊重し、より良い家庭を築こう。
- 3 スポーツやレクリエーションなどを通して、積極的に健康管理に努めよう。
- 4 乳幼児や高齢者への奉仕活動などを通して、子どもたちに「命の大切さ」や「命には限りがあること」を伝え、自己の生き方を考えさせよう。
- 5 職業や趣味で身に付けた様々な技術を子どもたちや青年に伝承し、日本には世界に誇れる技術力があることを知らせ、新しいものを創り出す喜びを伝えよう。

【成人期における人づくりの5つの提言】

- 1 家庭は、配偶者や祖父母等の人間性を受け入れ、家族とのより良い人間関係を形成しよう。
- 2 学校は、社会人の自己実現や職業能力開発を支援するため、知識や技能などが習得できるリカレント教育などの充実に努めよう。
- 3 地域や学校は、次世代育成を推進するため、奉仕活動など子どもたちとともに活動する場の設定に努めよう。
- 4 地域や学校は、成人期の人々のもつ技術を生かすため、ものづくり体験教室などの体験の場の設定に努めよう。
- 5 企業は、従事者の自己実現のため、研修やボランティア等への参加ができるような職場環境づくりに努めよう。

高齢期（社会と自己をはぐくむ）

【高齢期の皆さんへの5つのメッセージ】

- 1 過去の経験や知識を基に新しい自分を発見し、生涯学習に取り組もう。
- 2 社会の「ご意見番」として、長年培った経験や知恵、技術を活用し、次世代の育成に取り組もう。
- 3 生命尊重の精神や差別と偏見のない社会づくりに取り組もう。
- 4 自己の生きざまについて、地域の子どもたちや次世代と語り、子どもたちの生き方を考えさせるように努めよう。
- 5 体力保持のために、自分に合ったスポーツやレクリエーションに取り組もう。

【高齢期における人づくりの5つの提言】

- 1 家庭は、高齢者の長い人生から得られた経験や知恵などを若い家族に伝えることを通して、家庭のかけがいのない存在であるとの認識をもってもらおう。
- 2 学校は、社会人の自己実現や職業能力開発を支援するため、知識や技術を習得できるリカレント教育等の充実に努めよう。
- 3 地域は、高齢者の社会的な自己存在感が獲得できるよう、長い人生から得た経験や知恵を様々な人々に伝える場の設定に努めよう。
- 4 地域は、高齢者の体力の保持増進のため、様々なスポーツやレクリエーション活動の場の提供に努めよう。
- 5 企業は、働く意欲のある高齢者を積極的に雇用し、高齢者の社会貢献する機会の確保に努めよう。

(2) 21世紀社会をたくましく生きる人づくり構想

基本理念	身に付けたい5つの資質・能力	基本目標 【宇都宮市民の挑戦】 「教えられることによる学び」「自らの学び」「教えることによる学び」を通して	ライフステージ別の目標	
			乳幼児期 (おおむね0～6歳未満)	少年期 (おおむね6歳～15歳未満)
			体と心の根っこをはぐくむ	自信をはぐくむ
心豊かでたくましく創造的に生きる人づくりの実現	目標を実現しようとする意欲、態度	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と基本的信頼関係をつくる。 ・他者とぶつかりながらも、ものごとをやり通す意思をもつ。 ・自ら行動し、成功と失敗を体験しながら、目的を追求する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭、地域、社会の中で、試行錯誤により、生活力と自信を獲得する。 ・自分を見つめ、自分らしさの確立と他者を理解する姿勢をもつ。 ・「なぜ」を基盤に学ぶ力を伸ばす。 	
	学ぶ力、創造する力	<ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・友達 ・幼稚園・保育所の先生 ・動植物、自然 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・友達 ・学校の先生 ・地域の人々 ・動植物、自然 	
	ものづくりを通して、技術の伝承や科学の理解に努めます。 ・新しい物を作り出す態度 ・思考力	<p>「人」「モノ」に積極的にかかわり、いろいろな「ためし」をします。 進んで家事などを手伝い最後までやり遂げます。 ごっこ遊びや買い物の経験を通して、お金の役割を知ります。</p>	<p>様々な課題に挑戦し、自分の特徴や可能性について考えます。 自己の行いを振り返り、改善策を考えます。 学校の社会体験活動や親の働く姿などにより、「自分はこうなりたい」という夢を膨らませるとともに、働く意義を理解します。 労働の対価としてのお金の意義を理解し、カードなどの金銭に関する社会の仕組みを学びます。</p>	
	他者を思いやり、様々な人々と協力して、共に生きるよう努めます。 ・あいさつ、言葉遣い ・コミュニケーション能力 ・人間関係形成力 ・奉仕の精神 ・思いやり、共生の精神 ・倫理観 ・平和を願う心 ・生命尊重（死生観）の精神	<p>よく笑い、よく泣き、十分に自分の感情を表現します。 遊びながら、自然などの不思議を学びます。 遊びを通して、様々な表現方法を身に付けます。 進んで本に触れるようにします。 パソコン等と仲良しになります。</p>	<p>自分の考えをよく話し、相手の意見との違いに気づき、互いにより良い解決方法を発見します。 正しい日本語を身に付けるとともに、外国語の習得に心がけます。 情報モラルを守り、情報機器を上手に扱えるようになります。</p>	
	自国文化や異なる文化の理解し、新しい文化の創造に努めます。 ・自国文化理解 ・異文化理解 ・新しい文化の創造	<p>遊びの中で、友達と触れ合い、けんかをしたり仲直りをしたりしながら、より良い友達関係をつくります。 元気なあいさつと正しい言葉遣いをします。 「やってよいこと」と「いけないこと」を区別し、我慢することを身に付けます。 自然の厳しさやすばらしさ、生き物の生死にふれ、感動や命を大切する気持ちを持ちます。</p>	<p>動植物や乳幼児、高齢者などの触れ合いなどを通して「命に限りがあること」を自覚し、自己のより良い生き方を考えます。 友達など相手の立場を考えながら、責任をもって行動します。 家庭の手伝いや学校の奉仕活動等を通して、奉仕の気持ちを持ちます。 自然や社会の人々と触れ合いながら、自然の偉大さ、人の温かさを知り、集団の一員としての自覚と責任を持ちます。 争いごとや差別について学び、その改善に向けた取組を身近なことから実践します。 乳幼児や高齢者などとの触れ合いを通して「命に限りがあること」を自覚し、自己のより良い生き方を考えます。</p>	
社会のきまりを守り、協力し合いながら生活できるように努めます。 ・基本的な生活習慣の定着 ・社会のルール ・法令遵守	<p>地域の自然に触れたり、祭りなどの伝統行事に進んで参加するようにします。 外国の友達と仲良くします。</p>	<p>進んで、郷土の歴史、伝統文化、芸術に触れるようにします。 外国人との交流を通して、異文化への関心と理解を持つようにします。</p>		
健康・体力	<p>「起床」「食事」「睡眠」などの基本的な生活習慣を身に付けます。 家庭や幼稚園・保育所のきまりを守ります。 交通規則などの社会のきまりを守ります。</p>	<p>学校や地域のルールを守り、他人に迷惑をかけないようにします。 交通規則など、法令遵守の必要性を自覚し、進んで守るようにします。</p>		
健康・体力	<p>生涯にわたってスポーツに親しみ、健康や体力の保持・増進に努めます。 ・スポーツに親しむ態度 ・体力、自己管理能力(食)</p>	<p>友達と、外で元気に遊びます。 好き嫌いなく、規則正しい食事をします。</p>	<p>ルールを守り、仲間との関係を深めながら、進んでスポーツに取り組みます。 スポーツやレクリエーションなどに積極的に取り組み、体力向上に心がけます。 自己の健康などに配慮した食事をします。</p>	

ライフステージ別の目標			基本テーマ (主に、 行政施策の方向性)
青年期 (おおむね15～30歳未満)	成人期 (おおむね30～65歳未満)	高齢期 (おおむね65歳以上)	
<p>社会の中で自分らしさをはぐくむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の人々との対話により、価値観を再構築し、社会に通用する自分らしさを確立する。 他者のよさを理解し、かけがえない存在として尊重する。 <p>【重要となる対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族 職場の人々 社会の人々 	<p>次世代をはぐくむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族一人一人を理解し、愛情あふれる家庭を築く。 次世代をはぐくむことで、新たな自分の再構築をする。 社会的な責任を自覚する。 <p>【重要となる対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども、配偶者、祖父母 職場の人々 地域の子どもや青年 	<p>社会と自己をはぐくむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去のできごとを受け入れ、今後の人生のために、自分を再度見つめなおす。 長い人生の中で培った知恵、経験、技術などを社会還元する。 <p>【重要となる対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども、孫、配偶者 社会の人々 	
<p>自分が正しいと信じることを、進んで表現や実践し、結果に対しては、改善策を考えます。職業生活の充実のために、積極的にリカレント教育等を活用します。職場や地域の大人との交流により、望ましい勤労観を身に付けます。生活の中で、より良い金銭感覚を磨きます。</p>	<p>自主的に、様々な活動の企画立案や実践を行うとともに、その結果に対しての責任を持ちます。職業生活の充実のために、積極的にリカレント教育等を活用します。夢を追いながら、積極的に自己実現に取り組み、その姿を子どもに「そのまま」見せ、「夢を持つことの大切さ」を伝えます。</p>	<p>様々な活動の企画立案や実践、結果に対して責任をもって助言します。過去の経験や知識を基に生涯学習に取り組み、新しい自己を発見に努めます。自己の生きざまについて、地域の子どもたちや次世代と語り、子どもたちの生き方を考えさせるように努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画立案、評価を重視した学校教育の充実 生涯学習の推進 やり直しのきく教育システムの充実 結果平等から機会平等意識の転換への啓発 金銭(消費者)教育の充実等
<p>将来のイメージを設定し、「仕事をする」と「生きる」とを対比させながら、実現に向けた課題を見つけ出し、解決に向けて創造的に取り組みます。国際交流に活用できる語学力や様々な表現力を身に付けます。情報モラルを守り、様々な情報技術の習得に取り組みます。</p>	<p>職業生活や趣味などにおける自己実現を目指し、積極的に自己の課題解決に取り組みます。国を超えた様々な人々との交流を通して、豊かな表現力を身に付けます。新しい情報技術の習得をします。地域の子どもや青年に対し、自己の経験や知識、技能の伝達を通して、「学ぶ」ことの意義を教えます。</p>	<p>職業生活や趣味における自己実現を目指し、積極的に自己の課題解決に取り組みます。新しい情報技術の習得など、学び続ける姿勢を持ちます。社会の「ご意見番」として、長年培った経験や知恵、技術を活用し、次世代の育成に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園と保育所の教育の充実 家庭・地域、社会における子育て支援 基礎学力向上に向けた学校教育の充実 生涯学習活動の推進 学社融合の活動の充実 学習ネットワークの構築 語学力、情報技術習得推進等
<p>多様な原理や仕組みを取り入れ、独創的なものづくりに取り組みます。</p>	<p>職業や趣味で身に付けた様々な技術を子どもたちや青年に伝承し、新しいものを創り出す喜びを伝えます。</p>	<p>職業生活や趣味で身に付けた様々な技術を子どもたちや次世代に伝承し、新しいものを作り出す喜びを伝えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術・ものづくり体験活動の充実 科学技術・ものづくり技術伝承ネットワーク構築等
<p>地域の「ニューリーダー」として、年下の子どもたちを対象とした活動などを企画立案し、責任をもって実践します。差別と偏見のない地域づくりに取り組みます。国を超えた人々との交流などにより、日本のすばらしさや今後のありべき姿を認識するとともに、異なることを受容し、共に生かすこととする姿勢を身に付けます。乳幼児や子どもを生んだ母親、高齢者との交流を通して、生命誕生の素晴らしさや「老い」について考えます。</p>	<p>家族一人一人が持つ「らしさ」を尊重し、より良い家庭を築きます。地域のリーダーとして、地域の人々との触れ合いを深め、望ましい地域づくりに取り組みます。積極的に奉仕活動を企画立案し、責任をもって実践します。礼儀を重んじ、差別と偏見のない地域や社会づくりに取り組みます。子育て情報の共有化に努めます。乳幼児や高齢者への奉仕活動などを通して、子どもたちに「命の大切さ」や「命には限りがあること」を伝え、自己の生き方を考えさせます。</p>	<p>社会の人々との触れ合いを深め、互いに思いやる社会生活をします。積極的に奉仕活動を企画立案し、改善点について助言します。より良い社会づくりのリーダーとして、長年培った知恵、経験、技術を活用し、次世代を育成します。生命尊重の精神や差別と偏見のない社会づくりに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の充実 奉仕活動等活動の充実 地縁及び知縁コミュニティ活動の充実 社会体験などの様々な体験活動を大切にした学校教育の充実 コミュニケーション能力の育成に向けた学校教育の充実 命の教育の充実(体験活動の充実)
<p>子どもたちや高齢者との交流の中で、郷土の歴史、伝統文化、芸術に触れるようにします。様々な文化・芸術に触れ、異文化交流を実践します。新しい文化の創造に取り組みます。</p>	<p>身に付けた文化・芸術等により、世界の人々との交流に取り組みます。新しい文化の創造に心がけ、生活に生かすようにします。郷土の自然や歴史、伝統文化を次世代に伝えます。</p>	<p>身に付けた文化・芸術等により、世界の人々との交流に取り組みます。新しい文化の創造に心がけ、社会に生かすようにします。郷土の自然や歴史、伝統文化を次世代に伝えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民文化活動の支援 皇の根国際交流の推進 芸術家・文化伝承者等の育成 文化・確保 文化財保存活用、文化活動施設充実 自国文化の理解と異文化理解を旨とした学校教育の充実等
<p>地域よりさらに大きな「社会」を考え、身近な「モラル」から実践します。道路交通法や刑法などの法令を遵守します。</p>	<p>社会的な責任を自覚し、より良い地域や社会づくりに取り組みます。地域の活動において、法令遵守の大切さを教えます。</p>	<p>社会的な責任を自覚し、より良い社会づくりに取り組みます。社会全体に向け、社会生活をする上でのきまりを守ることの重要性を知らせます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付ける幼児教育の充実 交通マナー向上市民運動等の充実 きまりを守る教育の充実等
<p>スポーツのルールを守り、仲間との関係を深めながら、スポーツに取り組みます。スポーツやレクリエーションに積極的に取り組み、体力向上に心がけます。規則正しい生活と自己管理の姿勢を身に付けます。</p>	<p>スポーツやレクリエーションなどを通して、積極的に健康管理に努めます。世代を超えたスポーツの指導や交流により、次世代の育成に取り組みます。健康について考えた食事の仕方を伝えます。</p>	<p>体力保持のために、自分に合ったスポーツやレクリエーションに取り組みます。健康の維持管理に努めます。健康について考えた食事の仕方を伝えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校スポーツ、市民スポーツの充実 競技スポーツの振興 スポーツ施設の充実 スポーツや「食」を通じた健康への自己管理能力育成等

青年期	成人期	高齢期	
<p>青年期の子どもは将来の生き方について共に考え、先輩社会人として、的確なアドバイスに努める。子どもの生活の自立をめざし、何事も自分で決め、実行し、責任をもたせるよう努める。日々の生活の中で、金銭感覚を身に付けさせる。</p>	<p>家庭における子育ての重要性を認識するとともに、子どもとの温かな人間関係のもと、愛情豊かな子育てに取り組む。配偶者や祖父母等の人間性を受け入れ、家族とのより良い人間関係を形成する。</p>	<p>老化や親しい人との死別など身体的・精神的負荷に対する支援をするため、家族との温かな人間関係のもと、自分の人生等に前向きな感情がもてるように努める。長い人生から得られた知恵、経験、技術などを若い家族に伝えることを通じて、家庭のかけがいのない存在である認識をもたせる。</p>	<p>行政の家庭教育支援 (間接的支援)</p>
<p>再就職や進路変更などにも柔軟に対応できる高等教育の仕組みを通して、自己実現に向けた様々な知識や技能を提供する。社会的な自立をめざし、何事も自分で決め、実行し、責任をもたせるよう努める。情報教育と外国語の習得のための教育を充実させる。消費者教育を充実させる。リカレント教育の充実に努める。青少年支援ネットワークの構築に努める。</p>	<p>子育てをする保護者に対して、子育て情報を提供するとともに、相談機能を充実させる。幼稚園教諭や保育士による施設を利用した子育て支援を充実させる。社会人の自己実現や職業能力開発を支援するため、知識や技能などが習得できるリカレント教育等の充実に努める。次世代育成を推進するため、奉仕活動など子どもたちとともに活動する場の設定に努める。成人期の人々のもつ技術を生かすため、ものづくり体験教室などの体験の場の設定に努める。</p>	<p>社会人の自己実現や職業能力開発を支援するため、知識や技術を習得できるリカレント教育等の充実に努める。</p>	<p>行政の保育所、幼稚園、学校支援 (間接的支援)</p>
<p>奉仕活動や地域行事に企画段階から積極的にかかわらせ、世代を超えた交流を通して、責任感を身に付けさせることや社会的に認められる自分らしさを獲得させる。地域よりさらに大きな社会活動を通して、差別や偏見について考えさせ、社会人として身に付けなくてはならない力の育成に努める。乳児や高齢者に対する奉仕活動等により、生命尊重の精神を持たせる教育を充実させる。世代を超えたスポーツ活動や異文化交流活動等を通して、青年の健康や心の豊かさが育つように努める。生活の中で、論理的な思考や創造性、独創性を発揮したものづくりを展開する。青少年支援ネットワークの構築に努める。</p>	<p>親子で地域活動に参加することで、多感な子どもとのより良い関係を構築する力を身に付けさせる。世代を超えたスポーツ活動の場を設定し、健康管理に努める。異文化を理解し、文化の創造に努めるとともに、伝統文化の伝承に努める。次世代育成を推進するため、奉仕活動など子どもたちとともに活動する場の設定に努める。成人期の人々のもつ技術を生かすため、ものづくり体験教室などの体験の場の設定に努める。</p>	<p>高齢者の社会的な自己存在感が獲得できるように、長い人生から得た経験や知恵を様々な人々に伝える場の設定に努める。地域は、高齢者の体力の保持増進のため、様々なスポーツやレクリエーション活動の場の提供に努める。新しい文化の創造に努め、次世代に伝承する。</p>	<p>行政の地域、社会、市民活動等団体支援 (間接的支援)</p>
<p>青年の望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるため、積極的に学校教育等の社会参加体験やインターンシップ制度などに協力する。科学技術の習得や伝承の重要性を実感させるため、学校や地域を支援する。保護者が家庭教育や学校教育、地域活動に常にかかわれる職場環境づくりに努める。</p>	<p>従事者の自己実現のため、研修やボランティア等への参加ができるような職場環境づくりに努める。保護者が家庭教育や学校教育、地域活動に常にかかわれる職場環境づくりに努める。子育てのために退職した女性の就業支援に努める。</p>	<p>働く意欲のある高齢者を積極的に雇用し、高齢者の社会貢献する機会の確保に努める。</p>	<p>行政の企業等支援 (間接的支援)</p>
<p>青年期の人づくりを推進するために、「悩み等に関する相談ネットワークの確立」、「自己実現に関する情報の発信」、「市民活動団体等の支援」、「学校教育支援」に努める。進路変更に対応できる柔軟な教育の仕組みの構築に努める。青少年支援ネットワークの構築の支援とコーディネーター育成に努める。</p>	<p>家庭における子育ての重要性を認識するとともに、子どもとの温かな人間関係のもと、愛情豊かな子育てに取り組めるよう「子育て相談ネットワークの確立」、「子育て情報の発信」、「市民活動団体等の支援」、「幼稚園・保育所、学校教育の支援」に努める。配偶者や祖父母等の人間性を受け入れ、家族とのより良い人間関係を形成するため、相談事業や研修事業などの充実に努める。</p>	<p>奉仕活動や生涯学習の講師など各種行事等の指導者として、高齢者の優れた英知を生かす場を確保し、高齢者が生きがいを感じることでできる社会システムを構築する。</p>	

(3) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会委員名簿

【平成 17 年 1 月現在】

は会長

は副会長

氏名	所属団体等
太田 周	宇都宮大学 理事
船津 祥	財団法人とちぎYMCA 理事長
青柳 宏	宇都宮大学 助教授
中村 正之	常磐大学 助教授
小林 順子	臨床心理士
若林 治美	(株)下野新聞社 論説委員長
安久都 和夫	栃木県文化協会 副会長
遠藤 敏幸	友遊いずみクラブ 理事長
毎澤 典子	宇都宮市小学校長会 副会長
高橋 克知	宇都宮市PTA連合会 常任理事
藤沼 千春	(株)東武宇都宮百貨店 人事部人事課長
麦倉 仁巳	(社)宇都宮市障害者福祉会連合会 会長
佐々木 英明	宇都宮市自治会連合会 副会長
渡辺 暎子	日本看護連盟 栃木県支部長
赤羽根 肇	(財)とちぎ総合研究機構 理事長
栗坪 容子	市民公募員
石井 智子	市民公募員
加藤 英典	市民公募員

(4) うつのみや人づくりビジョン策定懇談会の審議経過

- | | | | |
|----------|-------|-----------|--------------------|
| 第1回策定懇談会 | 平成16年 | 5月26日(水) | 【教育の現状等】 |
| 第2回策定懇談会 | 平成16年 | 6月29日(火) | 【本市人づくりの現状と課題分析等】 |
| 第3回策定懇談会 | 平成16年 | 7月28日(水) | 【家庭地域学校の役割等】 |
| 第4回策定懇談会 | 平成16年 | 8月27日(金) | 【人づくり全体構想案等】 |
| 第5回策定懇談会 | 平成16年 | 9月28日(火) | 【ライフステージ別の人づくり体制等】 |
| 第6回策定懇談会 | 平成16年 | 10月29日(金) | 【提言書骨子等】 |
| 第7回策定懇談会 | 平成16年 | 12月22日(水) | 【提言書案等】 |
| 第8回策定懇談会 | 平成17年 | 1月11日(火) | 【提言書等】 |

4 市民意見交換会・企業意見交換会のまとめ

うつのみや人づくりビジョン市民意見交換会における主な意見・提言等

平成17年6月19日(日) 10:00~12:00

平石地区市民センター(宇都宮市民 64名参加)

平成17年6月25日(日) 13:30~15:30

総合コミュニティセンター(宇都宮市民 42名参加)

	意見・提言	回答
平石地区市民センター	<p>「対話」というと、一般に対象は「人」であり、「もの」との「対話」とは、高度な感覚ではないか。</p> <p>農業に取り組む者として、植物と対話をしている。対話の対象は、「人だけではない。</p> <p>ビジョンは、市民がどのようなことができれば、成功ととらえられるか。また、策定後、ビジョンの見直しを考えているか。</p> <p>ビジョンを実現するための方策を具体的に示す必要があるのではないか。</p> <p>パソコンに対する問題がたくさん出ているのに、パソコンに親しむ必要があるのか。</p> <p>自己実現の定義を示してほしい。キーワードは、共通理解できるようにしてほしい。</p>	<p>「対話」にかかわる言葉を検討してきたが、「対話」が一番ふさわしい。</p> <p>「対話」をキーワードとして取り上げる。</p> <p>市民が目標に向かって取り組むことができれば成功と考えたい。評価の仕方も工夫していきたい。今後、社会の状況の変化により、必要に応じて修正をしていくことも考えている。</p> <p>ビジョンは、計画ではないので、各種計画に反映させるなどして、具体化を図りたい。また、策定後もシンポジウムをおこなったり、リーフレットを配付したりして、市民周知を図るようにする。</p> <p>パソコンの活用は、乳幼児期でも必須となることが予想され、触れさせない教育よりも、適切に使っていく教育をするべきだと考えている。</p> <p>注釈をつけるなどして、説明を加えていく予定である。</p>

総合コミュニケーターセンター	<p>親が子どもに対する影響は一番大きいと考えるので、保護者の教育、家庭への支援が大切ではないか。</p> <p>策定した後、宇都宮市民に活用されるかどうかを危惧している。推進会議などを作って、年に2回ぐらい検証したほうがよいのではないか。</p> <p>宇都宮中が、人づくりの話題で盛り上がるようにして行ってほしい。</p>	<p>すべてのライフステージごとに一体的に人づくりを進めるとともに、地域、学校、企業などの支援の充実も必要であると考えている。</p> <p>具体的な施策事業を盛り込んだ計画ではないので、検証は難しいが、検討していきたい。</p> <p>このビジョンがきっかけとなって、人づくりの話題で盛り上がれば、成功だと考えている。</p>
-----------------------	---	--

うつのみや人づくりビジョン企業意見交換会における主な意見・提言等

:平成17年7月6日(水)15:00~17:00

:宇都宮市教育センター(企業関係者 31名参加)

意見・提言	回答
<p>ライフステージの分け方は、少年期を18歳まで、老齢期を75歳以上としたらどうか。</p> <p>海外では、学校教育の中に企業がボランティアとして参画している。企業が協力できることとしては、次のような内容が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修への講師派遣 ・総合的な学習の時間への協力 など 	<p>人の発達という視点や国の計画等を考慮し、年齢を設定した。</p> <p>企業の協力内容については、ビジョンに反映させていきたい。</p>
<p>ライフステージごとの問題は、何を根拠にしているのか。問題のとらえ方を誤れば、ビジョンの方向性も違ってくるのではないか。(家庭教育が充実されないのは、企業の休暇制度にあるのではなく、保護者の意識の問題ではないか。)</p> <p>ものづくりだけでは、文化を継承できない。「売る」ということも含めて、文化の継承ではないか。</p> <p>子育てが終わった主婦が社会にもどるというような内容を入れたらどうか。</p>	<p>問題点は、市民意識調査などのデータをもとにしている。市としては、休暇制度の充実など子育ての環境づくりを推進するとともに、保護者の意識を啓発し、人づくりを進めていきたい。</p> <p>ものづくりは、「文化」の項目から特出して設定してある。宇都宮市が工業都市であること、ものづくりが創造そのものの活動であることから、「ものづくり」を設定した。「売る」ということをどこで扱うかは、今後検討する。</p> <p>企業内の協力を得て実現できることであり、検討していきたい。</p>
<p>60歳(65歳)~75歳の間は、ボランティアの時代と考える。このような世代の人たちは、子育て経験を生かし、各世代への支援やアドバイスなど、社会とのかかわりを生かしたボランティアをおこなうことが必要ではないか。</p>	<p>貴重な提言を参考にしていきたい。行政が人づくりビジョンを作成することは、おこがましいという意見もあるかもしれないが、人づくりについて、これをきっかけに市民が話し合うようになることを願っている。また、予防的な解決も取り入れているのも大きな特徴である。</p>

<p>10年ぐらい前と比較すると、コミュニケーションをとることができない老人、笑顔がない老人が多い。家庭生活に問題があるのではないか。</p>	<p>高齢期は一般に失うものの連続で、社会とのかわりが希薄になる時期である。素案の高齢期の家族の役割に反映させてあるが、具体的な計画については、各課の計画に反映させていきたい。</p>
<p>21世紀に求められる力は、「きまり遵守の力」ではなく、「自らルールを作って守ること」ではないか。ルールを作って守るところに、対話や創造が生きてくると考える。 また、法令を入れているのはどうしてか。</p>	<p>権利は主張するが、義務は果たさないという指摘に対し、ルール遵守を設定し、最低限のルールである法令も記載した。</p>
<p>リーダーの不在が問題であると考え。自己実現が強く打ち出されていて、世代間の融合を図るようなリーダーシップが必要ではないか。</p>	<p>素案の各ライフステージの目標に、リーダーづくりに関することは具体的に盛り込んであるが、全般的な表現を検討してみたい。</p>
<p>小学校の学校教育改善が最重要課題であると考え。 今後、どのように企業とパートナーシップを図っていくか。</p>	<p>学校教育推進計画等に反映させていきたい。 各種計画に反映させるとともに、出前講座などを開催して、行政と企業が協力して人づくりを進めていきたい。</p>
<p>文部科学省のキャリア教育の指定を受けないのはどうしてか。</p>	<p>本市では、宮っ子チャレンジウィークを全市的に実施しているため、同内容の研究指定を受けていない。機会があれば、指定を受けたい。</p>